

島にESDを根付かせるため幼児期からはじめる子供丸ごと自然環境教育の実施体制の構築

活動地域  島根県

ひろげる助成

3年目

実践

幼児～高校生の自然体験活動参加者 **3,310人**

人材育成研修会 **2回**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **95%**



地域の海で自然体験

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

地域の高校の教育現場では、ESDやSDGsの認知度が低く、地域を学ぶ教科にSDGsの視点を入れるということが、伝わりにくかった。

■ 工夫した点

SDGsカードゲームを活用したワークショップを継続的に実施し、SDGsの視点を取り入れた模擬授業に参加してもらうことで、具体的な方法と内容を伝えた。

課題

現代は、田舎であっても子どもが自然に触れる機会はほとんど失われており、都市部以上に自然体験は地域の中で優先度は低いと思われる自然体験会などの機会も非常に少ない。

目標

未就学児、小・中・高校生に環境教育を意識した自然体験活動の機会を提供し、ESDの考え方を根底におき、将来の島の担い手となる人材を育成する。

活動内容と成果

- 幼児期自然体験：実施回数232回、延べ参加者数2,939人
 - 小学生自然体験：実施回数14回、延べ参加者数197人
 - 中学生総合学習授業：実施回数4回、延べ参加者数87人
 - 高校生とSDGsワークショップ：実施回数6回、延べ参加者数76人
 - SDGsの視点を取り入れた模擬授業：実施回数1回、延べ参加者数11人
- 2020年度より、SDGsの視点を取り入れた授業を高校3年次の「リベラルアーツ」で実施が決定し、幼児期～高校生までの環境教育の実施体制の土台を構築することができた。



地域住民を交えたSDGsワークショップ



小学校での環境教育の実施風景

全助成期間の活動を振り返って

島に環境教育を根付かせるために、教育の機会がなかった未就学児に対しても、定期的に週5回の自然体験活動が定着した。そして、課題であった高校との連携も定期的にワークショップを開催することで、2020年度より高校の授業でSDGsの視点を取り入れた授業の実施が決定した。目標としていた幼児期～高校生までの環境教育を実施する土台を構築することができた。

〒684-0403
島根県隠岐郡海士町大字海士5328-6
電話：08514-2-1313
E-mail：sizenmura@navy.plala.or.jp
HP：http://www.sizenmura.com/



今後の展望

目標にしていた幼児期～高校生までの環境教育実施の基盤を構築することができた。今後、この環境教育を保・高連携の中での一環教育として、発達段階に合わせた学習が継続的に実施できるように制度を構築していく準備を進めている。高校の授業は、2021年度以降も継続していけるように、継続的なワークショップや打ち合わせを高校教諭と地域住民と実施していく予定である。